

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園 グループホーム やすらぎの家		
所在地	一関市真柴字爪木立 43-96		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0370900441-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0370900441-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年11月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年、職員一人一人の「思い」を入れ込んだ理念を作り「協同」の意識を高めています。</li> <li>・その人の「出来る事」「出来かねること」を観察しケアプランに反映させ、生き生きとした日常生活を送って頂いています。</li> <li>・ご家族・職員が共通認識を持てるよう常に情報発信を行っています。</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然環境に恵まれた穏やかな山間地でありながら、2車線道路に面して交通の便にも恵まれた事業所である。利用者一人ひとりの表情は明るく、グループホーム全体も穏やかな雰囲気に包まれている。同法人の福光園「グループホームフクちゃんハウス」と一緒に、合同委員会で事故・ヒヤリハットを話し合い、グループホームで発表するなど、法人内の連携も優れている。スタッフは、法人役員や上司と心を通わせ、シフトも職員間で滞りなく行われている。運営推進会議には利用者全員と家族全員の参加が認められ、コミュニケーションを図るとともに、ケアの向上に積極的に取り組んでいる。個人の尊厳を大事にしているグループホームである。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・福光園の理念を基本とし、職員一人一人が作り上げた独自の理念を毎月の職員会議の資料に盛り込み意識付けを行っています。	法人としての理念のほかに、職員一人ひとりの思いを織り込んだ事業所独自の理念(自分らしく、さりげなく、和やかに)を作成し、月1回の職員会議や日々のコミュニケーションの中で確認・共有しながら利用者にやさしく接している。	法人としての理念と事業所独自の理念を作成しているが、事業所に掲示していないので、玄関や居間等に掲示のうえ、運営推進会議メンバーはもとより、地域住民とも共有されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地区行事・買い物・ゴミ出し等の機会を使い交流を図っています。	自治会には加入していないが、夏祭りや文化祭等地域の行事には積極的に参加している。また、日常的に買い物やゴミ出し等に出かけており、この機会を利用して、地域住民と挨拶したり、会話したりしながら交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・外出の際、入居者と職員の自然なかかわりを見ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・行政・民区の代表者については会議に参加していただき、様々な意見を頂いているが、ご家族の参加が乏しく充分とは言えません。	年6回2ヶ月ごとに開催している。主に事業所から提示された協議事項が話し合いの中心となっている。市職員、区長、民生委員、老人クラブ代表、消防署員、警察官、利用者全員、家族全員及び職員全員で構成する運営推進会議を隔月開催し、利用者の状況、事業所の行事等を資料を基に説明のうえ、様々な意見や助言を頂きながら運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議や行政の説明会の参加・両警ブロックの研修会の際に報告や助言を頂く形を取っています。	運営推進会議に、地域包括センター職員も毎回参加してもらっている。両警ブロック・GH協議会では介護保険の説明を受けたり、活動計画等を研修している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間帯に於いては一人対応であること・防犯の理由で施錠を行っていますが、日中に於いては自由に入出入りできる環境を作っています。	「センサーで感知したら、止めるのではなく利用者の気分に沿って支援する」こと等を内容とする事業所独自のマニュアルを作成しているほか、身体拘束に関する研修会には必ず職員を参加させ、その資料を基に内部研修を実施し、全職員に周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年間の職員会議に資料を配布し解釈に努めています。また、職員相互で情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要に応じ資料を活用し学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の際は、重要事項説明書・契約書を以て説明しています。また、心配ごとの相談等は随時対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の際に要望・意見を受け付けております。入居者に於いては、その都度対応しています。	運営推進会議や面会時、日々の寄り添いの中で聴取している。また、家族に毎月「やすらぎの家だより」を届けるとともに、玄関に受付コーナーを設けており、寄せられた意見や要望については、運営推進会議に報告・話し合いながら、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回の人事評価のフィードバックの際に個別に面談の機会を設けています。	直近の「第2回人事評価の実施について平成26年10月27日」を確認したところ、運営に関する職員の意見が反映されている。職員から出された「早番、遅番のシフト制」等についても、利用者の思いや効率性の観点から随時修正している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・業務中であっても、個々の意見や要望は聞く努力をし、結果を出せる様に意識しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・マニュアルを整備することにより、ケアの標準化を行っている最中です。「他の人の仕事を見る」事も大事な機会と思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・両磐ブロックの研修会に順次参加をさせ、情報の収集の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・傾聴を心がけ、出来る限り本人の立場に立った判断を行うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・傾聴を心がけ、出来る限りご家族の立場に立った判断が出来るよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報収集に努め、ケアマネとして学んできた知識を以て対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・介護を「させて頂いている」立場の認識を持つよう日頃の業務を通じ説明しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の動きを決定させるものは自らの仕事ぶりだと思いますので、本人を取り巻く環境に「家族」は不可欠重要な存在である事を常に言葉で示しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族の協力を得て地元の夏祭りに参加をしたり、食材の買い物で近隣の方・スーパーの店員さんに声をかけられたりしています。	「やすらぎの家だより」に各地へ外出している様子の写真が掲載されている。関生園の夏祭り・文化祭と、真柴民区の文化祭に参加している。花泉のかんぶんや一関駅前のマルエーに職員同行で買物をしている。知人・友人の面会や孫との手紙のやり取り、兄弟との電話のやり取り等をフォローしながら、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者一人一人を知ることから始まり、相互の関係の分析を行い円滑に日常生活が出来るよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時の情報提供はもちろんのこと、入居者を伴って面会に行ったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプランの更新に併せ本人に「意向」を確認し、プランに反映させています。	「生活援助計画」で本人の希望を(長期目標)という形式で反映し、事業所で「困っていることは何→解決すべき課題」「どうなってほしいか→短期目標」と整理して、実行した担当者が達成度まで記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・担当ケアマネからの情報提供を受けまた、ご家族からの情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・観察能力を高め、一人ひとりの状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・プラン作成時は会議に於いてカンファレンスを行い、職員から意見を貰い周知するようにしています。	「サービス担当者会議の要点」でケアプランの見直しを行っている。介護認定の更新の都度行っている。そのときに「生活援助計画」を作成する。個人個人について、担当職員が計画見直しをする場合は、立案の段階で連絡をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース入力の中で申し送りが必要な事項については「確認」の画面に飛ばして周知を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・介護保険の中で柔軟な支援が出来るよう職員相互の連携に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・生きていくために必要な資源の認知に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期通院の際には、「情報提供書」に必要な情報を記入しご家族に渡し主治医に見てもらっています。	ほとんどの利用者が入所前からのかかりつけ医を利用している。「情報提供書」(各人毎に症状、経過、家族から連絡と主治医からの所見)を確認した。内科・外科・眼科・一般病院と契約して、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々のバイタルチェックの他、口頭による体調確認・目視による確認を行い異常の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時にはサマリーを作成し情報提供を行っています。退院時には情報提供を受け円滑な対応に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時には併せて特養への入所申し込みもしています。重度化した場合は都度行っています。	事業所としては看取りはしないが、入所時に法人及び事業所の状況を説明・話し合いのうえ、法人が運営する特養への入所申込みをして頂いている。重度化した場合は、家族と改めて話し合いのうえ、適切な支援ができる施設への移動も視野に対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・入居者の病状については日々周知しており、急変時の対応については緊急通報システムの脇に手順を貼り、落ち着いて対応出来るようにしています。また、年1回は普通救命講習会を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の避難訓練を実施し、運営推進会議構成員・災害時協力員・ご家族の参加で行っています。	「避難経路図」は廊下に、「緊急時連絡表」は事務コーナーに掲示されているのを確認した。「非常時災害訓練実施結果」を確認したところ、夜間の火災を想定して、7月25日10:00～10:20に利用者9名・職員7名・近隣2名・家族2名が参加して訓練をした。	次回の避難訓練時には、スプリンクラーや火災報知器等の点検・作動訓練も合わせて実施されることを期待したい。また、将来的には、関係事業所はもとより他事業所との広域連携対応等も検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者と介護員の関係について都度説明を入れ込んだ業務を言葉を用いて説明しています。	個人情報等について、2種類の「同意書」について説明し、同意を得ている。利用者の尊厳を大切にすること等を盛り込んだマニュアルを作成し、職員全員で共有している。利用者一人ひとりの誇りや尊厳、プライバシーを損ねないよう、利用者を「さん」づけで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・「開かれた質問」を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の意向を尊重しつつも、機能低下が懸念される場合は働き掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・「自己選択」の場面を作るようにしていますし、必要な人には必要な声掛けをし、尊厳を崩さない配慮をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立・買い物・調理・片づけの一連の流れを入居者とともに行っています。	利用者とともに花泉・一関市内のスーパーに買い出しに行っている。献立・買い物・調理・片づけの一連の流れを利用者とともにしている。季節ごとに、漬物、芋の子汁、すいとん、焼いもパーティー等、旬の食事を提供し、楽しみながら食事をして頂いている。また、時には外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・法人の管理栄養士に年2回献立表を提出し意見を求めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・個別に対応する形を取っていますが、自立を基本としている所から不十分さが否めません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の自立を目指して取り組んでいます。必要な方には早めの支援を行う形で失敗を防ぐようにしています。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を記入した「排泄・水分摂取記録表」を活用している。排泄が自立の方は9名中7名、夜間のポータブル利用は3名である。なかには、自立してトイレでの排泄ができるようになった利用者やリハビリパンツから綿パンツに切り替わった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の健康状態・食事・水分の摂取状況を把握し、個別の対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・現段階では施設の都合での入浴の機会となっていますが、発汗の多い時期・水虫発生時等には臨機応変な対応を行ってきました。	原則として、週4回、午前と午後に分けて入浴して頂いているが、夏場等発汗時には利用者の体調等に配慮しながら臨機応変に対応している。また、季節にはゆず湯を取り入れたり、冬場は入浴剤を取り入れたりしながら、楽しんで入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不活性にならない程度に本人の意思を尊重する形を取っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬事情報を周知し、必要時にはくすりの時点を活用し効用に併せ副作用についての知識も得ています。薬変更時は「経過観察」を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の「得意とするもの」「興味をひくもの」を観察し勧めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・食材購入はもちろん、今年度はご家族の協力により地元の夏祭りに参加ができていますし、マイクロバスを利用して全員が外出できる機会も計画しています。	夏祭りや文化祭、運動会等の地域行事には職員が付き添って参加している。また、今年はマイクロバスを利用して利用者全員での外出を計画しており、11月16日には巖美溪に紅葉狩りに出かけている。このほか家族対応で、花火大会や外食、温泉に出かけている利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在1名の方が所持金を管理していますが、他は施設管理となっています。間接的にですが、日常的に必要なものは個別に買い物に出掛ける機会を設けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望には都度対応できていますが、手紙に関しては「返事を書く」形が多いようです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・危険因子の排除はもちろんですが、個々に「分かりやすい工夫」をしています。	入居者の目線の高さに表示等を合わせている。タンスの表に、入っている衣類の種類を記入して分かりやすいようにしている。廊下にはぬり絵を飾っている。ボランティアの方が来訪し、2週間に1回ぐらいで、花を生けて頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・椅子・ソファ・テーブル等を利用し、定位置から離れて過ごせる空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個々のこだわりの物の持ち込みをさせて頂いています。	部屋には、ベッド、クローゼット、冷暖房器具、クリアケース等が備え付けられており、持ち込みは自由で、家族写真、仏壇、テレビ、椅子といった馴染みのものを持ち込んでいる。特にクリアケースを備え付けたことにより整理整頓が改善され、快適に暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物自体が古い様式のものである事が個々の住みやすさに繋がっていると思われます。		